

## 【第11回全国大会 口頭発表】

テーマ	学級目標を軸としたアンケートの作成・活用による自発的・自治的な学級活動の取り組み—学級経営のユニバーサルデザインからの考察—
発表者 (所属)	石井雄大 (埼玉県公立小学校)
<b>【発表概要】</b>	
<b>1. 問題と目的</b>	
本研究は、学級目標を達成するためのアンケートを児童自身で作成・活用していくことで、自発的・自治的な学級活動を促していくことをねらいとしたものである。また、学級経営のユニバーサルデザインという視点から分析・考察を行う。	
<b>2. 調査対象及び期間:</b>	
公立小学校5年A組 (男子14名・女子17名) (令和6年4月～3月)	
<b>3. 分析方法:</b>	
・アンケートの質問文は、子どもたちが学級目標 (3つの視点) に合わせて文言を作成した。学級で意味や捉え方の相違がないかを確認し、質問項目として定めた。	
・各視点の質問項目を1点～5点で評価した。	
・実施頻度は、教師と児童で相談しながら、定期的に行った。アンケート実施後は、各質問項目の点数を平均値として算出し、グラフ化した。	
・グラフ化した資料は、話し合い活動で用いた。また、教室内に掲示し、日常から意識できるようにした。	
<b>4. 結果及び考察</b>	
アンケートをもとに結果を見直し、行動を改善していくことで、どの児童も課題を解決していきこうとする姿勢を高めていくことができた。また、児童の振り返りをM-GTA (木下,2007) を用いて分析し、生成したカテゴリーを「学級経営のユニバーサルデザイン (赤坂,2020)」と照らし合わせた。「振り返り」「課題」のカテゴリーは、学級での過ごし方の共通理解の促進と、不安感の低減につながる。また、グラフ化などを通じて学級の状態が視覚化できるので、子どもが課題に対して正対でき、集中しやすい物的な環境を整えることができる。学級での過ごし方の共通理解は、「意見の表出」や「振り返り」「課題」の認識を通じて行われ、「気持ちの共有」が発生すると考えられる。このことが一人ひとりの「意識の変化」や「達成感」につながっていると考えられる。子ども同士の認め合う関係性は「話し合いの仕方」や「気持ちの共有」を通じて行われると思われる。次第に「友達」「学級」の関係性が変化し、支持的風土が醸成されていくと考えられる。教師は、子どもたちの「気持ちの共有」「意見の表出」を見取りながら一人ひとりの理解促進と信頼関係の構築に努め、適切なリーダーシップが発揮しやすくなると思われる。課題としては、適用の可能性を広げることである。今回は、小学校5年生での実践であった。今後は、他の学年や他校種の実践でデータを積み重ねていくことにより、確かな知見が得られると考えられる	